

議会だより

Vol.
197
2019.1.17



12月の
定例会

② 子育て支援!
認定こども園が開園

⑩ 行政視察 先進地に学ぶ
茨城県取手市・JAEA

⑦ ズバリ！町政を問う
3 議員が質問

⑪ 将来を見据えた適正な議員定数の設定を
議員定数等に関する特別委員会

平成最後の新成人／富岡町成人式(学びの森)

【認定こども園の概要】

認定こども園とは、教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所両方の良さを併せ持った施設

○名称：にこにここども園

○住所：富岡町大字小浜字大膳町152番地

○定員：1号認定 38名 2号及び3号認定 52名

1号認定：満3歳以上の小学校就学前の子ども(2号及び3号認定に該当するものは除く)

2号認定：満3歳以上の小学校就学前子どもであって、保護者の労働又は疾病その他の内閣府令で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの

3号認定：満3歳未満の小学校就学前子ども※1であって、保護者の労働又は疾病その他の内閣府令で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの

※1 平成31年度については平成30年6月1日以前に生まれた子ども(生後10か月)が対象

○保育料：認定区分、世帯の所得状況に応じて条例で定めた金額

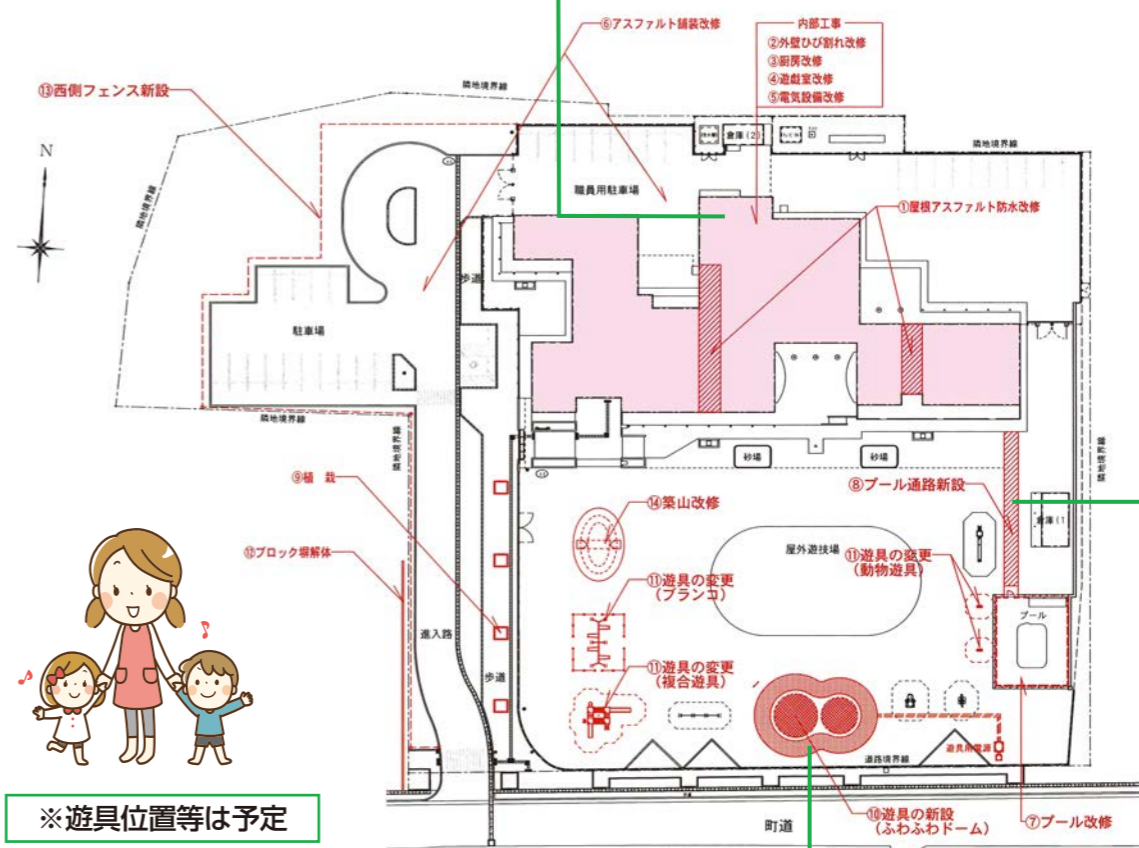
※保育料の減免規定は規則で定める。



遊戯室にはクライミングウォールを設置(イメージ)

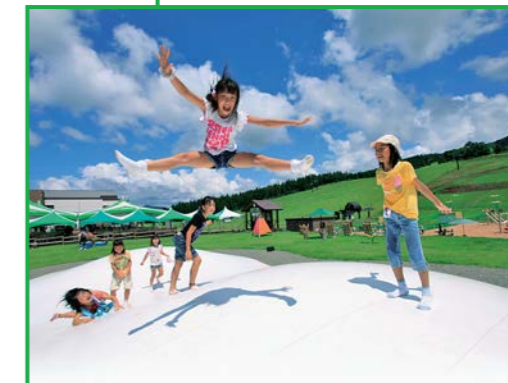


プール通路をゴムチップ舗装(イメージ)



※遊具位置等は予定

- 【その他の主な改修工事】
- ・屋根アスファルト防水改修(防水張替)
 - ・厨房改修(厨房機器の変更など)
 - ・プール改修(床材を防滑ビニール材に変更)
 - ・植栽(剪定、支障根の撤去)
 - ・遊具の設置(複合遊具、ブランコなど)
 - ・園西側ブロック塀解体、フェンス新設
 - ・築山改修(新設)



園庭にふわふわドームを設置(イメージ)

町民はもとより、勤務地が当町にある方や近隣の町村にお住まいの方など、幅広く受け入れたいと考えています。

答 健康福祉課長補佐

問 預かることができる園児の要件は。(渡辺正道)

答 総務課長

問 開園に伴う職員配置体制は。(渡辺正道)

答 健康福祉課長

問 線量の問題があるので、ふわふわドーム等の遊具は歩道の桜の木そばに設置しない方がいいのでは。(高橋実)

答 健康福祉課長

ふわふわドームの設置場所の線量は0.1〜0.17μSv/hであり、今後表土を除去し、埋め戻しを行いますので、更なる線量の低減が図れると考えています。

問 町民と町民でない方で保育料の違いは。(渡辺正道)

問 4月の開園予定時に想定される入園者数は。(渡辺正道)

答 健康福祉課長補佐

現在、富岡第一中学校で預かり保育をしている児童とアンケート調査の結果などから、20名程度を受け入れられるよう準備したいと考えています。

議員が切り込む!! 質疑応答

産業団地整備工事の落札額は適正か

工事契約

【工事請負契約の概要】

- 名称 富岡産業団地整備工事
- 工期 平成33年3月19日まで
- 契約金額 39億5730万2520円
- 契約の相手方 仙台市青葉区大町二丁目8番33号 西松建設(株) 東北支店

【採決結果】

- 可決** 賛成：8 高野匠美、渡辺高一、堀本典明、早川恒久、遠藤一善、安藤正純、宇佐神幸一、渡辺三男
- 反対**：5 渡辺英博、渡辺正道、高野泰、黒澤英男、高橋実

※議席番号順

問 最低制限価格を独自で上げている自治体もあるが。(堀本典明)

答 総務課長 国、県の動向を見ながら、内部で検討していきたいと考えます。

問 最低制限価格は、要綱等で国から示されている基準をもとに算出したものを反映させています。

答 総務課長 最低制限価格は、要綱等で国から示されている基準をもとに算出したものを反映させています。

問 予定価格と比較して落札率がかなり低い。作業員の確保が困難なことや資材の高騰など、当時の現状を考えると最低制限価格を上げるべきだったのでは。(堀本典明)

答 総務課長 最低制限価格は、要綱等で国から示されている基準をもとに算出したものを反映させています。

問 これだけ大規模な工事であれば、地域活性化や地元企業の育成などの観点からも、地元業者を当該工事に参入させることは、とても大事なことでと考え

問 きちんとした品質と安全の確保が必要だが、どのような手法で行うのか。(堀本典明)

答 復旧課長 当該工事においては、監理技術者を2名配置することを条件としています。また、工事管理業務を委託し、町と施工者、管理業者が連携して、工事の品質と安全の管理に努めていきます。

問 当該工事について、町がしっかりと監理する体制構築が必要だと思

答 復旧課長 町の監理体制としては、当初から当該事業に関わる職員が主となり、事業を進めていきます。また、工事管理を委託する業者についても、産業団地の設計に携わった事業者を選定し、適正な工事の進捗管理に努めたいと考えます。

問 町として請負業者にどこまで意見できるのか。(高橋実)

答 総務課長 町として請負業者に対して、当該工事に町内事業者を参入させてほしいという要望はしたいと考えています。

問 当該工事について、町がしっかりと監理する体制構築が必要だと思

答 復旧課長 町の監理体制としては、当初から当該事業に関わる職員が主となり、事業を進めていきます。また、工事管理を委託する業者についても、産業団地の設計に携わった事業者を選定し、適正な工事の進捗管理に努めたいと考えます。

問 町として請負業者にどこまで意見できるのか。(高橋実)

答 総務課長 町として請負業者に対して、当該工事に町内事業者を参入させてほしいという要望はしたいと考えています。

【賛成】渡辺三男議員
 早急に産業団地を整備する必要があるため賛成。
 今回整備する産業団地に早く入りたいという町内事業者が多くなる。工事の管理体制に不安な面はあるが、町がしっかりと目を配ることで改善できると判断する。

【反対】高橋実議員
 地元企業育成の観点から反対。
 今回否決となり、たとえ工期が遅れたとしても、町内事業者の区画を優先的に整備すれば影響は最小限に抑えられる。現在の最低制限価格の設定では、地元企業が町の一大プロジェクトに安心して参入することができない。

【討論】
 地元企業育成の観点から反対。
 今回否決となり、たとえ工期が遅れたとしても、町内事業者の区画を優先的に整備すれば影響は最小限に抑えられる。現在の最低制限価格の設定では、地元企業が町の一大プロジェクトに安心して参入することができない。

【12月定例会のあらまし】

平成30年12月定例会は12月13日から14日まで2日間の会期で開催しました。条例の制定・改正案件や工事請負契約案件、平成30年度補正予算など、22件の議案及び人事委員会勧告に基づく条例の改正案件など、8件の追加議案、計30件の議案を慎重に審議し、すべて原案のとおり可決しました。一般質問では3議員が登壇し、今後直面する課題や町政運営のあり方について伺いました。

こんなことが決まりました

条例制定

認定こども園条例を定める
 幼保連携型認定こども園の設置等を定めた条例について、可決しました。
 ※P2関連記事
 (12月定例会 全会一致 原案可決)

条例改正

納期前納付報奨金を廃止
 個人の町民税にかかる納期前納付による報奨金の廃止に伴い、税条例の一部を改正することについて、可決しました。
 (12月定例会 全会一致 原案可決)

役場組織の改編
 中期的展望を見据えた行政組織の改編について、可決しました。
 (12月定例会 全会一致 原案可決)



富岡幼稚園



富岡保育所(改修中)

富岡保育所・富岡幼稚園を削除
 認定こども園の整備に伴い、富岡保育所及び富岡幼稚園を条例から削除することについて、可決しました。
 (12月定例会 全会一致 原案可決)

《分割》 健康福祉課 ⇒ 健康づくり課 ⇒ 福祉課	《変更》 復旧課 ⇒ 都市整備課
《廃止》 教育総務課 ⇒ 教育総務課 ⇒ 生涯学習課	《廃止》 拠点整備課(都市整備課に業務を移管) 復興推進課 (健康づくり課及び生活環境課に業務を移管)



富岡漁港線廃止



夜ノ森駅東西自由通路新設

町道路線の認定・変更・廃止
 新たに町道として認定する33路線、変更する2路線、廃止する2路線について、可決しました。
 (12月定例会 全会一致 原案可決)

町道認定

工事変更契約

認定こども園遊具設置工事の変更
 園児の安全・安心な生活環境整備を図るとともに、体幹を養う魅力ある遊具を設置するための工種の変更について、可決しました。
 ※P2関連記事
 (12月定例会 賛成多数 原案可決)

【工事変更契約の概要】

- 名称 富岡町認定こども園整備工事
- 契約金額 《変更前》 3億5769万6000円
《変更後》 3億8623万3920円
- 変更概要 ふわふわドームの新設
クライミングウォールの新設 など

スバリ!! 町政を問う

3議員が質問

12月定例会の一般質問に3議員が登壇し、町の対応や考えなどを問いました。この紙面では、質問した順に質疑応答の要点をお知らせします。

1 安藤 正純 議員 8



- 農地を荒廃させない取り組みは
- 高速道路無料化の延長を求めよ
- 営業損害の追加賠償判断基準の提示を求めよ

2 渡辺 正道 議員 9



- 通通勤バスの今後の見通しは
- ふるさと納税の指定事業項目の整備を

3 堀本 典明 議員 10



- さらなる定住を促す施策を
- 浜通りの連携が実感できない

動画配信中!



※QRコードを読み取ると各議員の一般質問動画が見られます。

一般会計 補正予算

曲田都市計画街路4号線整備費等を計上

《8億8473万円を増額補正》

道路新設改良費(曲田都市計画街路4号線の整備)等の計上により、8億8473万円の増額補正を行い、総額222億9583万円となりました。補正のあった主な事業は下表のとおりです。

事業名	補正予算額
交通安全対策事業費(カーブミラーの更新など)	420万円減
農地基盤整備対策事業費	2億3665万円減
道路維持管理費	640万円減
道路新設改良事業費(都市計画街路4号線整備工事など)	9630万円増
漁港災害復旧事業費	2822万円減
国庫支出金等返還金	8億732万円増
その他(福島再生加速化交付金基金積立金など)	2億5658万円増



問 交通安全対策事業費の減額理由は。(宇佐神幸)

答 生活環境課長
カーブミラーの撤去、更新が少なかったため、減額したものです。

問 交通安全協会の再開は。(宇佐神幸)

答 生活環境課長
交通安全協会は本部が一部再開しています。今後、交通安全協会の方々と協議をし、体制を整備していきたいと考えます。

問 農地基盤整備対策事業費の減額理由は。(安藤正純)

答 産業振興課長
ため池放射性物質対策工事の設計が完了し、事業費が確定したため、不用品を減額したものです。

問 道路維持管理事業費が減額となっているが、帰還困難区域内の道路も整備が必要では。(遠藤善)

答 復旧課長
帰還困難区域の道路も、随時整備しています。ただ、場所によっては災害復旧で対応する場合もあります。

問 災害復旧で対応する道路であっても簡易的な補修はすべきでは。(遠藤善)

答 復旧課長
町内パトロールで現場を確認し、簡易的な補修を行います。

問 鮭のやな場及び増殖施設の整備場所は。(渡辺二男)

答 産業振興課長
これまでは、やな場も増殖施設も富岡川河口周辺にありました。漁業協同組合と協議した結果、やな場は元の河口周辺に整備し、増殖施設は旧役場敷地北側あたりに整備する予定です。



渡辺 正道 議員

問 通退勤バスの今後の見通しは

答 継続か否かの検討が必要

問 今後の財政状況を鑑み、行政経費の節減の観点から、通退勤バスの費用対効果が重要になると考える。町職員の中で対象としているバス利用者は何名か。また、現在の利用状況と運営経費の原資と総額は。

答 総務課長 対象者は郡山市・県中地区の46名で、現状では1日平均5名程度の利用が続いています。財源は町単独費で昨年度は約3000万円、今年度は運行台数やバスの小型化などを図り1150万円を計上しているところです。



通退勤バスは平日に1往復運行
通勤：8：20着(郡山支所 6：00発)
退勤：17：45発(郡山支所 20：05着)

問 46名中5名程度の利用にとどまっている理由をどう考えているか。

答 総務課長 仕事の内容や状況により、退勤時間が一定にならないことで利用しにくい状態になっていると考えます。また集合場所からの乗降車となり、使い勝手が悪い運行になっているのも乗降する職員が増えない一因と考えられています。

問 来年度も予算計上しているが、本事業創設の段階から現状は予見できたと考える。直ちに見直すべきではないか。

答 総務課長 費用対効果の面からも運行を継続するか否かを検討する時期と認識しています。職員の健康保持や冬の間の安全確保、また職員労働組合からも継続の申し入れもあり、慎重に検討していくことが必要であると考えています。

問 職員の健康診断結果、特に精神疾患患者はどのよう把握しているのか。

答 町長 定期健康診断結果については各自に通知し、職員の心の健康保持のため、定期的なストレスチェックとそれに基づきカウンセラー面談を実施しています。

問 事業項目別寄付金を利用して各事業は行っているのか。

答 総務課長 事業指定のあるふるさと納税については基金として積み立て、使用しています。

問 事業項目の早急な整備、検討が必要と考えます。

答 総務課長 指定事業項目の早急な整備、検討が必要と考えます。

問 事業項目の一つである、ジュニアゴルフアール育成による地域活性化事業が、HPに現在も記載されている事に違和感を覚えるが。

答 早急に整備し案内する

問 時間外勤務や退勤時間の各課・各支所の労働環境バランスをどのようにつとめていくのか。

答 総務課長 事業量に見合った職員配置や各課の業務量の把握、職員個人のスキルの向上につながる研修等に参加させるよう配慮しているところです。

問 農地を荒廃させない取り組みは

答 農地集約と担い手の確保が重要



安藤 正純 議員

問 農業に対して異業種の参入、特に建設業の方々と地域おこし協力隊を全国的に募集すべきでは。

答 産業振興課長 町は建設業に限らず、法人の事業参入を取り込む考えがあります。また、地域おこし協力隊も一つの方法として検討していきます。

問 県の第三セクターである農地中間管理機構の制度を活用するため、本制度を広く農家の方に周知すべきでは。

答 産業振興課長 出し手と受け手の間に立つ農地中間管

問 町が積極的に農業従事者への支援を行うために、喫緊の課題である育苗センターを公設民営で建設すべきでは。

答 産業振興課長 育苗施設整備については、管理費用などの独立的な収支状況についてJAとも協議しているところです。

問 町が積極的に農業従事者への支援を行うために、喫緊の課題である育苗センターを公設民営で建設すべきでは。

答 町長 県との共同作業で農家の数や農地の面積など、きつちりした計画を整備すれば福島再生加速化交付金の対象となります。町は、昨年の農家座談会において、カントリエレベーターや育苗施設も必要であれば造るという考えを示しており、営農再開を支援していきたいと考えています。そういった状況の中で、担い手の確保が一番大きな障壁になっています。

問 町長 県との共同作業で農家の数や農地の面積など、きつちりした計画を整備すれば福島再生加速化交付金の対象となります。

答 町長 昨年の農家座談会において、カントリエレベーターや育苗施設も必要であれば造るという考えを示しており、営農再開を支援していきたいと考えています。そういった状況の中で、担い手の確保が一番大きな障壁になっています。



農地中間管理機構とは？
高齢化や後継者がいないなどの理由で耕作できない農地を借り受け、担い手農家に貸し付ける中間的受け皿

問 2020年3月末をもって高速道路の無料措置が終了となるが、延長を求めべきでは。

答 町長 一部地域を除き避難指示が解除されましたが、宅地や建物は修繕や除草などの維持管理が必要で、2020年4月以降の高速道路無料措置の延長を関係機関に強く要望します。

問 高速道路無料化の延長を求めよ

答 延長を要望する

問 無料化措置延長の要望は帰還困難区域だけでなく、富岡町全域を対象としてほしいが。

答 住民課長 富岡町全域を対象とする考えで進めていきます。

問 町長 一部地域を除き避難指示が解除されましたが、宅地や建物は修繕や除草などの維持管理が必要で、2020年4月以降の高速道路無料措置の延長を関係機関に強く要望します。

問 町長 町は富岡町商工会や近隣町村と連携し、東電に対し、原子力損害賠償紛争審査会賠償指針の遵守と誠意ある対応を求めるとともに、賠償の完全実施を強く要望していきます。

問 町長 一部地域を除き避難指示が解除されましたが、宅地や建物は修繕や除草などの維持管理が必要で、2020年4月以降の高速道路無料措置の延長を関係機関に強く要望します。

問 町長 町は富岡町商工会や近隣町村と連携し、東電に対し、原子力損害賠償紛争審査会賠償指針の遵守と誠意ある対応を求めるとともに、賠償の完全実施を強く要望していきます。

問 町長 町は富岡町商工会や近隣町村と連携し、東電に対し、原子力損害賠償紛争審査会賠償指針の遵守と誠意ある対応を求めるとともに、賠償の完全実施を強く要望していきます。

問 町長 町は富岡町商工会や近隣町村と連携し、東電に対し、原子力損害賠償紛争審査会賠償指針の遵守と誠意ある対応を求めるとともに、賠償の完全実施を強く要望していきます。

問 営業損害の追加賠償判断基準の提示を求めよ

答 賠償の完全実施を強く求める

原子力等
特別委員会

要望① 増え続ける汚染水タンクの 処分計画を示せ



黒澤英男議員

福島第一原発構内に汚染水タンクはどのぐらいあるのか。また、どのぐらいのペースで増えているのか。

現在、汚染水タンクは約900基弱あります。1日に約150トンの汚染水が発生していますので、1000トンのタンクが1週間で1基ずつ増えている状況です。

汚染水タンクの今後の処分計画は。

2日で1基ずつ新たなタンクを増設しており、2020年までのタンク増設や敷地の確保については計画ができています。それまでには国の委員会で決められた指針に従い、処分計画を示したいと考えます。



東京電力㈱

要望② 全ての汚染水タンクの詳細な データを開示せよ



東京電力㈱

汚染水タンクにはトリチウム以外の核種が含まれている。どのタンクにどんな核種がどのぐらい含まれているのか、詳細なデータを開示すべきでは。

現在、タンク内の汚染水の放射能濃度データを国に提出しています。これを一般の方にもわかりやすいようにグラフ化したり、俯瞰図を用いたりしながら、タンク群ごとの放射能濃度のレベル分布図などをホームページに掲載したいと考えます。



安藤正純議員

要望③ 港湾内に着底させるメガフロートの 汚染度を示せ



渡辺三男議員

メガフロートを港湾内に着底させ、護岸及び物揚場として活用することだが、メガフロートも汚染されている。海に沈めるのであれば汚染度をしっかりと示すべきでは。

メガフロートには損傷のなかった5・6号機に入り込んだ海水を入れたため、大きな汚染はないと判断していますが、改めて汚染濃度を測定し、お示ししたいと考えます。



東京電力㈱

問 さらなる定住を促す施策を

答 新たな施策構築を目指す



堀本 典明 議員

問 本年度最重要課題である、定住を促すための定住化促進対策住宅助成事業、子育て世帯支援奨励金をスタートさせている。来年度に向け、さらなる定住を促す施策が必要だと考えるが、町の考えは。

答 町長 町の状態に応じた取り組みの継続と課題解決に向けた新たな施策を構築することを旨とし、関連事業をひとまとめにする施策のパッケージ化によって見える化を図り、広くお示しすることが重要であると考えています。

問 今後予定されている交流公園など大きなフィールドアスレチックなどを設けながら、子供が安心して遊べる環境整備の考えは。

答 企画課長 アスレチック施設も一つの起爆剤になると思いますが、状況や状態を見ながら、検討したいと考えます。

問 生活必需品を販売する専門性を持った店舗について、公設で店舗を整備し誘致するような考えは。

答 町長 公設で整備することも検討の余地はありますが、入ったテナントが運営を継続的にできるかどうかを考えれば難しい一面があると考えています。

問 富岡で働くために近くに住みたい、アパートを借りたい人に賃貸住宅でも住宅の助成金などを検討しては。

答 総務課長 民間の賃貸住宅を活用して町営住宅として運用できないか、現在検討を進めているところです。



JAEA原子力科学研究所(茨城県東海村) 多くの企業や大学の研究機関が集積 国内外の研究者が基礎科学から産業応用まで多様な研究・開発を推進している

問 浜通りの連携が実感できない 中長期的な対応が必要

答 本町では、廃炉国際共同研究センターを誘致している福島イノベーション・コースト構想について、浜通りの連携が実感できない状況であるが、今後の展望と町の考え、取り組みは。

答 町長 本構想が実現し、浜通りの産業復興や産業集積を果たすまでにはまだ時間がかかり、中長期的な対応が必要です。

問 イノベーション・コースト構想関連の大きなイベントを浜通りで開催できるよう働きかけを。

答 企画課長 交流人口という観点からも積極的に取り組みたいと考えます。

問 廃炉にかかわらず何か新しい研究施設などを誘致すれば、今後につながるかどうかではないかと考える。そういった施設の誘致も推進しては。

答 企画課長 研究施設の誘致にも積極的に取り組んでいきたいと考えます。

総務常任委員会

総務常任委員会が調査した主な事業について報告します。

※常任委員会とは①

本会議前に議案などを事前に審査したり、各課の事務の執行状況などを調査する場です。

＜風疹の予防接種＞

Q 風疹の予防接種に対する助成は。

A 町では、妊娠を希望する女性と配偶者及び妊婦の配偶者に対して、風疹の予防接種に対する助成を数年前から実施しています。

4月以降、妊娠を希望する女性5名、配偶者5名、妊婦の配偶者3名の合計13名に対して助成をしているところです。【健康福祉課】

＜子宮がん健診の実施地区＞

Q 子宮がん健診をいわきや郡山だけでなく、富岡でも受診できるようにしては。

A 子宮がん健診はある程度的人数が集まらないと実施できないこともあり、本年度については富岡では実施できませんでした。来年度は、今年度子宮がん健診を受診された方の受診動向や近隣町村の帰還状況等を勘案しながら、町内での健診の実施を検討します。【健康福祉課】

＜リフレ富岡の今後＞

Q 特定復興再生拠点区域内にあるリフレ富岡を今後どうしていくのか。

A 今後被害調査を実施しますが、復旧には20億円以上かかることが予想されます。特定復興再生拠点には交流できる場がないため、リフレ富岡を復旧し利用するのか、規模を縮小して新たな施設を建設するのか、費用対効果等を見極めながら、検討していきます。【企画課】



内部は震災当時のまま



天井の落ちているプール

＜町内コミュニティへの支援＞

Q 町内にできた新たなコミュニティへの支援策は。

A 現時点では、学びの森等の町有施設の利用料を減免するなどの支援はしていますが、今後どのような支援策を提示できるか広く検討していきたいと考えます。【総務課】

＜一時立ち入り業務の受付窓口＞

Q 一時立ち入り業務受付窓口の本部を郡山から富岡本庁舎に移す考えは。

A 現在のところ、富岡・いわきの窓口で受けた一時立ち入りの申請についても、本部の郡山に情報を送り、確認をした後、許可証を発行している状態です。来年度からは富岡・いわきの両窓口で申請を受け付けたものはその場で確認し、許可証が発行できるような体制に変更します。【住民課】

＜固定資産税課税額の周知＞

Q 住宅が解体され、更地になった土地の固定資産税課税額が上昇することについて、どのような周知方法を考えているか。

A 住宅がなくなった後の土地の固定資産税については、平成33年度までは据え置かれます。今後、納税通知書を送付し、税額等をお示ししながら、平成34年度までには周知徹底が図れるようにしたいと考えます。

Q 将来的な課税額をイメージできるように、平成34年度以降の概算の固定資産税額を記載した通知書を同封し、周知を図るべきでは。

A 土地の面積や負担調整率等、1件ごとに変わってきますので、個別の通知は難しい点もありますが、今後検討していきたいと考えます。【税務課】



- 議会事務局
- 出納室
- 教育総務課
- 健康福祉課
- 住民課
- 税務課
- 企画課
- 総務課
- 総務課
- 所管課

※常任委員会とは②

全議員が必ずどちらかの常任委員会に所属します。
行政視察や事業の現地視察も実施します。

＜ 防災行政無線個別受信機の再設置 ＞

Q 町内で転居した場合、防災行政無線の個別受信機を再設置してもらえるか。

A 転居された場合、ご連絡をいただければ業者を手配し、電波調査をした後、個別受信機の再設置を行います。 【生活環境課】

＜ 荒廃家屋の撤去 ＞

Q 町内にある荒廃家屋は、町が主導して、所有者に対して国に解体申請をするように促す必要があるのでは。

A 道路沿いにある荒廃家屋については、町が所有者に連絡をとり、解体申請をするように求めています。

Q 荒廃家屋は安全上の問題だけでなく、放射線量、有害鳥獣の住み家、景観等、様々な問題が発生する。道路沿いの荒廃家屋だけでなく、町内全ての荒廃家屋について、対処する必要があるのでは。

A 町全体の荒廃家屋を確認し、所有者に連絡をとるようにします。 【復興推進課】

＜ 放射能測定所の運用 ＞

Q 役場敷地内に整備した自家消費野菜等放射能測定所の運用計画は。

A 町内サロンと役場庁舎内にある非破壊式放射能測定機器を測定所に移し、1月から食品検査を実施します。

Q 土日祝日の体制は。また検査予約は必要か。

A 土日祝日はお休みになります。1月から平日8:30～17:15の時間帯に職員を配置して対応します。検査予約の必要はありません。 【復興推進課】



役場敷地内に測定所を建設



大型の測定器を設置

＜ 公園の整備 ＞

Q 子どもを安心して遊ばせられるような公園の整備を。

A 植栽の剪定や除草は実施済みで、今後通路の整備も実施します。今回、岡内東児童公園に遊具を設置し、北側のフェンスの更新も行う予定です。子どもが遊ぶ場所ですので、細心の注意を払い、整備を進めていきます。 【復旧課】



北側フェンスを更新



岡内東児童公園に遊具を設置

＜ デマンドバスの運行計画 ＞

Q 来年度のデマンドバスの運行計画は。

A デマンドバスは交付金を充当して事業を実施していますが、来年度も運行を継続できる見通しです。町としても、町民の大事な交通手段として長く事業を継続できるよう検討していきます。 【産業振興課】

＜ 交流サロンの閉鎖 ＞

Q 泉玉露の交流サロンを閉鎖することについて、いわき市に住む町民の意見は。

A 泉玉露の交流サロンに通っていた方からは、続けてほしいとの要望は出ています。今後、近隣の高齢者サポートセンターいずみにサロン機能を移しますので、そちらを積極的に案内していきたいと考えます。 【いわき支所】



- 郡山支所
- いわき支所
- 生活環境課
- 産業振興課
- 農業委員会
- 拠点整備課
- 復興推進課
- 復旧課
- 所管課

行政視察 先進地に学ぶ

総務常任委員会・産業復興常任委員会は、平成30年11月21日から22日にかけて、茨城県取手市及び日本原子力研究開発機構(茨城県東海村)の行政視察を行いました。

本町は昨年4月に約6年ぶりにふるさとへの帰還を果たし、住宅環境・医療体制・商圈再開・インフラ復旧など、急ピッチで生活基盤の整備を進めています。そのような中、帰還する町民は高齢者が多く、高齢者支援対策は喫緊の課題となっています。また、町内には数多くの施設が建設、整備されていますが、日本原子力研究開発機構(JAEA)が運営する廃炉国際共同センターの果たす役割が見えてこないとの声も聞かれます。

そこで、高齢者支援対策に幅広く組んでいる茨城県取手市の政策と東海村に本部がある日本原子力研究開発機構の役割について学んできました。

JAEA
(東海村)

最先端技術を 廃炉研究に生かす

産業復興
常任委員会

【原子力科学研究所の概要】

- 敷地面積 222ha(約67万坪)
- 職員数 約950名

《研究・活動内容》

- ・福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究活動
- ・原子力分野の人材育成
- ・研究開発の基盤である施設群が集積

《廃炉に向けた研究》

- ・燃料デブリの遠隔分析技術
- ・高減容化処理施設で放射性廃棄物の減容を実現(約1/3~1/4に減容)など

《原子力分野の人材育成》

- ・大学等との連携協力による人材育成
- ・国内外での人材育成研修事業 など

《研究技術の産業利用の促進》

- ・リチウムイオン電池の開発
- ・タイヤの性能向上実験 など



研修所見

今回視察したJAEAでは、原発廃炉にかかる研究開発や原子力に関わる人材育成、研究開発した技術をどう実生活に生かしていくかなど、様々な観点から幅広く研究活動がなされていた。

実際のところ、JAEAが担う役割について深く理解している人は少ないだろう。しかし、今回視察をしてみて、福島第一原発の迅速かつ安全な廃炉を進める上でも、今後の原子力に関わる人材を育成する上でも重要な機関であると感じた。我々は原発立地町議会議員として、当該施設の重要性を広く地域住民に伝える責務を担っていると考える。

取手市

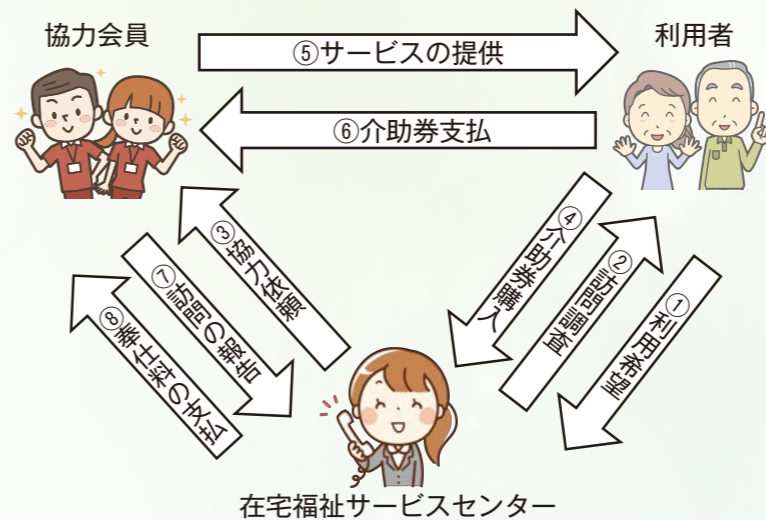
多様な高齢者支援策で 元気なまちへ

総務
常任委員会

【取手市の概要】

- 人口 107,704人
- 面積 69.94km²(富岡町は68.39km²)
- 65歳の高齢者数 35,658人 高齢化率 33.11%(茨城県平均 28.9%)
- 65歳以上の要介護認定者数 4,482人 認定率 12.58%(茨城県平均14.9%)

《在宅福祉サービス》平成29年度利用実績 のべ2600時間
利用者が**介助券(1枚700円)**を購入
1時間につき1枚を協力会員に渡す
主なサービス:食事の支度、洗濯、通院介助 など



認知症の症状がある方等に
キーホルダーとステッカーを配布



取手
ウェルネス
プラザ

- ・取手駅前に立地
- ・多世代交流施設
- ・健康増進の拠点
- ・広い屋内遊戯室



問 ステッカー等が配布された認知症の方への緊急時の対応は。(遠藤一善)

答 高齢福祉課

連絡を受けた場合は、業務を委託している地域包括センターの職員が見回りや自宅に伺うなど、土日祝日や夜間も24時間対応しています。

問 在宅福祉サービスは要介護度に関係なく利用できるのか。(渡辺三男)

答 社会福祉協議会

介護保険で利用できる上限を超えた場合など、要件が合えばサービスを受けることは可能です。要介護度によって利用を制限することはありません。

研修所見

高齢化率の高い取手市に元気なお年寄りが多いのはなぜか。それは、取手市が行政として、急速に高齢化が進むまちの現状をしっかりと受け止め、何が必要か分析し、多種多様な高齢者支援対策を講じているからだ。

また、取手駅前には多世代がゆったりと過ごせる素晴らしい施設もある。視察時には、幼児が元気に遊び、お年寄りがジムで汗を流し、学生がロビーで勉強するという光景が見られた。

今後、今回の研修で学んだ様々な施策が当町の現状とどう適合するのかを見極めながら、高齢者支援策について政策的な提言をしていきたいと考える。

平成30年12月6日、議員定数等に関する特別委員会を開催し、当町の将来を見据えた適正な議員定数等について議論しました。

次回の当町議会議員選挙は、平成32年3月に執り行われます。

今後も本特別委員会を開催し、議員定数等に関する議論を深め、早急に適正な議員定数をお示しします。

【富岡町議会議員選挙の議員定数及び立候補者数(過去5回)】

	平成12年3月	平成16年3月	平成20年3月	平成24年3月	平成28年3月
議員定数	20名	18名	16名	14名	14名
立候補者数	22名	19名	無投票	16名	15名

定数減

【安藤正純委員】

今後の当町の人口は3,000人から4,000人に落ち着くと予想している。であれば、議員自らが定数減を提案すべきであると考えてるので、定数4減とするのが望ましい。

定数を減にした分、議員活動は多くなると考えられるので、報酬を10%程度上げられればと考える。

【宇佐神幸一委員】

各委員会の活動等も考慮すると、定数4減の10名にするべきだと考える。

報酬は現状のままでよい。

【高野匠美委員】

女性議員がもう少し増えればよいとの思いはあるが、現状を考えると定数は2～4名減らした方がよいと考える。もう少し議論を深めたい。

報酬を上げることは考えていない。

【塚野芳美委員】

将来的な町の人口を考えれば、定数4減の10名にすべきだと考えている。

報酬は双葉郡内8町村の中でも高い方なので、これ以上上げるのが適当なのか、判断が難しい。

【遠藤一善委員】

将来の町の想定人口を見極めるのは難しい状況ではあるが、定数2～4名の減は必要であると考えている。

定数を減にするのであれば、若い人に参画してもらうためにも報酬は上げた方がよい。

【早川恒久委員】

町民目線で考えれば定数減はやむを得ないと考えている。2～4名の定数減は必要。

若い世代に議員になってもらいたいと思うので、報酬や議会活動の時間など、今後の議会を活性化させるために思い切った議会改革も必要だと思う。

【渡辺英博委員】

定数は減にすべきだと考えるが、町民の声に耳を傾ける議員活動をするためにもある程度の人数は必要。2～4名減が妥当だと考えている。

定数を減にしても、報酬は上げるべきではない。現状維持が望ましい。

【黒澤英男委員長】

個人的には定数2名減が妥当であると思うが、委員の皆さんの意見を尊重したいと考えている。

今後の議論の中で、本特別委員会の結論を出し、平成31年3月の定例会に条例改正案を提出したい。

現状維持

【渡辺三男委員】

将来的には大幅に定数減にすべきだと思うが、全国各地に町民が避難している今の段階で減らすべきではない。あと4～5年経てば状況も落ち着いてくるし、町民の動向も読めるようになる。それまでは現状維持でよい。

能力のある若い人に門戸を開くためにも、ある程度の報酬は必要であると考えている。

【高橋実委員】

定数減にすれば、新たに議員になりたいという人が出てこなくなる。現時点で13,000人の町民がいる中で、4,000人を想定した議員定数にすれば、町外に居住している町民は見捨てられたと思うのではないかと。現状維持でよい。

町民の理解を得たいのであれば、定数は現状維持で議員報酬を2割程度下げればよい。

保 留

【渡辺高一委員】

将来的な人口予測ができない中で、現時点で定数をどうすればいいのか判断するのは難しい。今後の議論の中で、自分の考えを整理したい。

報酬を増やすことは考えられない。現状のままでよいと考える。

【堀本典明委員】

今の町内の現状だけ見ると定数は減らすべきなのかもしれないと思うが、現時点では迷っている。

報酬の若干の増減が、立候補するしないを決める大きな要因にはならないと思うので、報酬は現状維持でよいと考える。

【高野泰副委員長】

調整役に徹したい。今後数回開かれる特別委員会の中で、委員の皆さんの意見をしっかりと聞き、本特別委員会としての結論が出せればと考えている。

【渡辺正道委員】

定数を変更する理由には様々な要因があり、現時点では明確な数字は出せない。

定数増と報酬増はありえないと考えている。

ちよっとひとこと

みなさまの声

Q. 20歳を迎えた感想は？

A. 20歳となり、気持ちの面で引き締まると共に、法律のような制度面では新たに権利が与えられ、義務が課されます。それらを理解し、努力していきたいと思います。

Q. 20歳を迎え、まずやってみたいことは？

A. 今までお世話になってきた方とお話したいです。20歳の自分の姿を見ていただき、改めて前とは違う成長した自分で話してみたいと思います。

Q. ふるさと富岡での思い出で、心に残っていることは？

A. 富岡町には夜の森の桜並木やつつじの花、うちわ祭り、えびす講市と小学生ながら大好きなものが多くありました。今は、友人や家族とそういったものを見たり参加したりしたことが一番心に強く残っています。

Q. ふるさと富岡の復興のために、何が必要だと思いますか？

A. 富岡町は魅力的な景色や自然など他に負けない観光資源があったと思います。しかし、今は震災の影響を受けてしまいました。まずは富岡町に足を運んでもらうことが重要です。そこで富岡町と言えばこれと言われるような、代名詞となる観光施設を作るとよいと思います。

Q. 将来の夢は？

A. 現在は挑戦してみたいことや、やりがいのあることが多く、一つに絞ることができません。しかし、自分がどういった道を選択しても何らかの形で、富岡町の教育に関わらせていただきたいと思っています。



成人式実行委員長 荒木明彦 さん

議会を傍聴しませんか？

- 3月定例会は、5日(火)～8日(金)の会期で開催する予定です。
- 所定の用紙に、住所・氏名・性別・年齢(○歳代)を記入いただくだけで、どなたでも傍聴することができます。
- 審議日程など、詳細については議会事務局までお問い合わせください。
議会事務局 ☎0240-22-2111(代表)

【お詫びと訂正】

議会だより第196号「ちよっとひとこと」の遠藤則政氏の経歴に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

(正)平成24年 双葉地方森林組合
定年退職
平成27年 農業委員に就任
(2期目)



新年明けましておめでとうございます。表紙の写真は平成最後の富岡町成人式に参加された新成人の皆さんです。

小学校卒業間近で震災に遭い、避難を余儀なくされた寂しい思いの中で生活された皆さんが、久しぶりに会う友達と笑顔で話されている姿に感動しました。

議会報は町民の皆さんに少しでも多くの情報をお伝えできるよう編集に心掛けています。議会の情報発信について、ご意見ご要望をお寄せください。
(堀本 典明)

発行責任者

議長 塚野芳美

議会報編集特別委員会

委員長 堀本典明

副委員長 渡辺高一

委員 渡辺正道

委員 高野匠美

委員 遠藤一善

委員 安藤正純

